

やら化学の歴史やらなんだか昔話のようになってしまいました。はじめは私の英語力の問題かと悩んでいましたが、ラボのメンバーにその話をすると、みな声をそろえて「先生はそういう人だから仕方ないさ」と大笑い。彼らの助言を受けて、具体的な研究予定を立ててディスカッションに臨むと「それは面白い是非やろう」と、5分で終了してしまいました。確固たる自分の意志を持ってディスカッションに向かう事の大切さを痛感した瞬間でした。

Lentz研は教授と学生がいるだけで、

助教やポスドクなどのスタッフがいません。そんな環境とLentz先生の人柄のおかげで、学生はそれぞれ独立した考えを持っていて、研究も個々が自分のアイデアで進めているようでした。もちろん先生は助言をくれますが、いき詰まるまでは自分でなんとかする習慣が根付いているようで、日本でも見習いたいと思います。また、活動時間は朝は9時頃から夜の7時頃で、日本と比べると短いように感じましたが、そのぶん集中して研究に取り組む事ができ効率的に進める事ができたように思

います。これも日本に持ち帰りたい習慣の一つです。

今回のように短い期間ながら海外で生活する機会を頂き、日本での研究生活にあらたな視点を持ち帰る事ができたように感じます。また、英語でのコミュニケーション能力や外国人と意思疎通を行う能力は、分子研での生活で確実に養われている事が確認できました。このような機会を与えてくださった櫻井先生やLentz先生に心から感謝いたします。

E V E N T R E P O R T

学生報告 平成22年度海外総研大レクチャー

物理科学研究科機能分子科学専攻 5年一貫制博士課程3年 杉浦 晃一

平成22年11月22日から4日間にわたり海外総研大レクチャーに参加し、タイのチュラロンコーン大学を訪問しました。私は、「アジアの学生と交流してみたい、英語の研究発表をしてみたい」と思い参加を決めました。まず驚いたのは、タイの学生が話す英語の流暢さです。私も流れるように英語が出てくればいいなど実感しました。次に驚いたのが、タイの料理です。非常に辛いものが多く、香草のパクチーで味付けしてあり、日本にはない香ばしい味のものが多かったように思います。

チュラロンコーン大学において、両大学の先生方の研究活動について講義を受けました。3分間の口頭ポスター紹介では、英語のプレゼンテーション

に戸惑いながらも、学生全員が英語で説明することができました。その後のポスターセッションでも、英語でのポスター発表なので説明が難しい反面、次回の発表への課題がわかり大変勉強になりました。また本レクチャーに宇宙科学専攻の学生が参加したことで、専攻間を超えた異分野学術交流の場ともなりました。

昨今、学術領域でも若者が海外に行きたがらないという傾向が強いと報道されていますが、海外総研大レクチャーをきっかけに「海外で自分の研究結果を発表したい」という積極的な学生がもっと増えればいいなと思います。



Koichi Sugiura

豊橋技術科学大学工学部電気・電子工学課程を卒業後、平成20年4月に総合研究大学院大学物理科学研究科機能分子科学専攻へ入学。現在、五年一貫制博士課程3年。電子物性研究部門中村グループにて磁気共鳴装置やX線構造解析を用いた有機導体TMTTF塩の電子状態研究に取り組んでいる。



学生報告 平成22年度海外総研大レクチャー

物理科学研究科宇宙科学専攻 5年一貫制博士課程4年 三浦 政司

10月20日から二日間にわたり、バンコクのチュラロンコン大学にて、CU-IMS JOINT SYMPOSIUMが開催されました。私は分子研ではなくJAXA宇宙科学研究所にて研究を行っている他専攻の学生なのですが、海外総研大レクチャーの一環としてこのシンポジウムに参加させていただきました。

シンポジウムでは、日本・タイ両国の研究者による分子科学のホットな話題についてのレクチャーと、参加学生によるポスター発表が行われました。レクチャーでは講演者の皆様分かりやすくかつ魅力的に研究の話をして下さったので、専門外である私でもとても楽しむことができました。逆に、ポスター発表においては自分の専門分野の話を知りやすく異分野の方達に説

明しなければならず、その大変さを実感しました。また、シンポジウムの合間や夕食会などにおいては、タイの学生や分子研の学生たちとお互いの研究生活や文化などについて語り合い、交流を深めることができました。

私は学際交流と国際交流を通して視野と見識を深めることを求めて今回のシンポジウムに参加することを希望したのですが、この目的を十分に達成することができたと思います。エキゾチックなバンコクの地にて、分子というミクロで魅力的な世界に思いを馳せた時間は、私にとって非常に有意義な経験になりました。このような素晴らしい機会を与えて下さった分子研およびチュラロンコン大学のオーガナイザーの皆様はこの場を借りてお礼を申し上げます。

Masashi Miura

東京大学工学部を卒業後、総合研究大学院大学物理科学研究科5年一貫博士課程に入学（平成18年）。JAXA宇宙科学研究所にて、ロケット飛翔体の誘導制御に関する研究に取り組む。研究活動の傍ら、学際的ワークショップの企画や水ロケットを用いた宇宙教育活動などを展開している。



E V E N T R E P O R T

教員報告 第7回夏の体験入学

2010年度担当教員 分子スケールナノサイエンスセンター 准教授 永田 央

総研大広報事業の1つである分子科学研究所夏の体験入学は、今回7回目となりました。この事業は、全国の大学生・大学院修士課程の学生を対象に、分子研での研究活動を実際に体験し、研究所を基盤とする大学院大学の魅力と特色を知ってもらうことを趣旨としています。今年は、8月9日～12日の4日間に開催し、24名（留学生2名を含む。男性15名、女性9名）の参加がありました。学年の内訳は、B1:1名、B2（高専5年を含む）:7名、B3:9名、B4:4名、M1:3名でした。

スケジュールは例年と同様、初日午後からオリエンテーション、UVSORと計算科学研究センターの見学のあと歓迎会を行いました。2日目・3日目は研究体験で、2日目の夜に研究所若手中心の懇親会を実施しました。最終日に行った内容報告会は非常に力の入ったもので、参加学生たちがそれぞれの

研究室で有意義な体験をしたことがよく伝わってきました。各研究室で工夫をこらし、大変な手間をかけて接していただいた成果があったと思います。

アンケートで「進路の選択肢として総研大に関心がある」と7割程度の人が答えています。入学者確保のための広報事業としては、少なくとも入り口としての役割は果たしていると言えます。一方、総研大の入学志願者・合格者は漸減傾向にあり、入学者を増やすという結果には必ずしもつながっていません。総研大を「知ってもらう」という努力は重要ですが、入学者の確保につながるためには別方向の努力も続けて行く必要があります。

この事業は、総研大特定教育研究経費「新入生確保のための広報的事業」、および「物理科学研究科大学院教育改革推進プログラム」の一環として行われました。財政支援にご協力をいただきました物理科学研究科と総研大葉山本部の皆様方、および実施にご協力いただいた分子研関係者の皆様方に御礼を申し上げます。



参加者感想 新潟大学大学院自然科学研究科 学部1年 池田 悠

私は今年度のオープンキャンパスで分子研を訪れ、最先端の研究の講義をしていただいたり、分子研の方々ともたくさん貴重な話をすることができ、とても実りの多い経験をさせていただいた事が縁となって今回の体験入学に参加しました。

私は大学で錯体化学を専攻しているのですが、今までしたことがない分野に触れてみたいと思い、木村先生のもとで「固体表面電子の相対論効果をみよう！」という実験をさせていただきました。全く予備知識もなかったのですが、丁寧な指導のおかげで実験も

スムーズに進み様々な知識を身に付けることができました。細かい作業が多く、丁寧に作業を進めなくてはいけなかったのが大変でしたが、一つの現象を調べるためのプロセスを学べたことや、概念を学べたことは大変貴重だったと思います。

今回の体験入学では、新しいことを学び、新しい友人ができ、とても密度の濃い時間を過ごすことができました。今後も分子研の方々や今回できた友人と学会などでお会いすることがあると思います。人脈をつくるという意味でも今回の体験入学は大変有意義だった

と思います。

最後になりますが、開催してくださった関係者の皆様、受け入れてくださった木村グループの皆様に深く御礼申し上げます。



E V E N T R E P O R T

学生報告 平成22年度後期学生セミナー

物理科学研究科機能分子科学専攻 5年一貫制博士課程1年 Fei Wang

I joined the student seminar of SOKENDAI during October 7th to 8th, which I would keep it in my memory as a forever treasure. The deepest impression is that all of the new students were separated into 5 groups and the team members worked together to competed with other teams.

It is a precious experience to me since I have never had such an experience of communicating with so many foreigners. To me, it is a tough work to discuss in English,

however, we cooperated with each other smoothly.

It is also an inspiration to all of us. Because of the different culture of our own, it was difficult to meet an agreement and everyone had to persuade the opposite site. Although it was a competition to us, it inspired us for everyone got the benefit of another eyes of his culture.

The Japanese culture gave us unlimited joy. Origami and handwriting pulled the student

seminar to a highlight and everybody immersed into the atmosphere of Japanese culture.

I really enjoyed myself in the student seminar for the diversity of culture, for the happiness atmosphere and the wonderful food provided for us.

Fei Wang

中国の福州大学で学士の学位を取得後、平成22年10月に総合研究大学院大学物理科学研究科構造分子科学専攻5年一貫制博士課程へ入学。新たな気持ちで触媒化学の研究を行っています。



学生報告 平成22年度後期学生セミナー

物理科学研究科機能分子科学専攻 5年一貫制博士課程1年 Mahesh Chandak

The student seminar for the year of 2010 was held on 7 to 11 October, 2010. Seminar was full of different personal and group activities. It was started with the Musical performance followed by president's message. Prof. Friedrich Paul had given interesting lecture about knowledge, imagination and ethics. After lecture all new students were divided into few groups for free discussion on the topic of knowledge and imagination. It was nice platform to discuss with each other, to acknowledge others views and to gain knowledge because all students were from different background. On the second day,

Dr. Genshiro Kitagawa presented lecture on scientific research in the information era with the broad prospective about creation of knowledge. After this lecture we had group photos and special interactive activities. Finally, university arranged Japanese culture and Japanese language course. Different traditional celebrations, a tour to museum which has variety of artistic collection, short summary of ongoing Antarctic research and course of Japanese language were fascinating events for remaining days. I appreciate the efforts of student committee for arranging such a wonderful seminar.

I thank you to the respected

president and professors for all concern and spending time with new student.

Mahesh Chandak

I have Obtained my Masters in Biophysics from Government Institute of Science,India. After having research exposure at Advanced Centre for Treatment, Research and Education in Cancer (ACTREC), Mumbai, India, I worked as a Faculty for 2.5 years at Department of Physiology,MGM Medical College,India. Now I am doing my PhD a Department of Functional Molecular Science, Institute of Molecular Science. My research work includes a molecular medicine oriented interdisciplinary research project focussed on protein structure and dynamics.

